

(令和6年4月30日発表)

大河ドラマ「どうする家康」に係る経済波及効果

◆アピールポイント	「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」開館等による、静岡市内への経済波及効果は、 119.88億円 と推計しました！
◆内容など	1 趣旨 大河ドラマ「どうする家康」に係る経済波及効果について、調査・集計が完了しましたので、内容について公表します。 2 概要 大河ドラマ館の運営支出や来場者の消費支出、関連施設への来場者やイベント参加者の消費支出等をもとに、開館に伴う経済波及効果を推計しました。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> 「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」開館等による静岡市内への経済波及効果 119.88億円 </div> 【主な経済波及効果】 (1) 関連施設来場者支出に伴う経済波及効果 60.04億円 ○関連施設来場者実増加数 362,140人 ⇒駿府城公園展示施設、静岡市歴史博物館、静岡浅間神社、久能山東照宮 (2) ドラマ館来場者支出に伴う経済波及効果 46.98億円 ○来場者数 283,356人 (3) 関連イベント参加者支出に伴う経済波及効果 4.24億円 ○イベント参加者数 53,647人 ○イベント参加者一人当たり支出額 6,290円
◆コメント	家康公ゆかりの地の賑わいや、周辺市町を含めた回遊の活性化を誘発、令和5年の市内宿泊者数はコロナ前を上回る、延べ200万人超となるなど、滞在時間の延長や宿泊につながったと考えています。今回の成果を継承し、歴史文化と美食、絶景を合わせた特別な感動体験ができるコンテンツを充実させ、観光地域づくりを進めていきます。
◆その他	詳細は別紙資料をご覧ください。

 別紙資料 有 ・ 無

 イベントカレンダーへの掲載 有 ・ 無

【問合せ】 観光政策課 (静岡庁舎17階)
 担当 中村、知久
 電話 054-221-1438

静岡市大河ドラマ「どうする家康」
活用推進事業経済波及効果推計
報告書

2024年3月

静岡市大河ドラマ「どうする家康」活用推進協議会

【調査受託：一般財団法人 静岡経済研究所】

1 調査の概要

(1) 調査の目的と内容

1) 調査目的

本調査では、2023年1月27日～2024年1月28日に設置された「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の運営支出や来場者の消費支出、関連施設への来場者やイベント参加者の消費支出等をもとに、開館に伴う経済波及効果を推計した。

2) 主な調査内容

経済波及効果の推計

「平成27年静岡市産業連関表」を用いて、①主催者運営支出額、②来場者の消費支出額、③関連施設・イベント来場者の消費支出額に伴う経済波及効果を推計した。

3) 調査・推計方法の概要

- ・主催者運営支出額および大河ドラマ館来場者数、関連施設・イベント来場者数は、主催者把握による。
- ・来場者による消費支出額は、するが企画観光局来訪者調査（2023年1月1日～12月31日、n=5,945）の集計結果を用いて推計。イベント参加者の消費支出額は、2023年1月8日に開催された出陣式やパブリックビューイング参加者向けのアンケート集計結果（n=1,343）などをもとに設定した。
- ・経済波及効果の対象エリアは、静岡市内とし、「平成27年静岡市産業連関表」を用いて経済波及効果（生産誘発額）を2次まで推計した。

2 調査結果の概要

▶ 「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」開館による静岡市内への経済波及効果は

119 億 88 百万円

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」開館による静岡市内への経済波及効果（総計）

（単位：百万円、倍、人）

	総支出額	直接効果 (A)	経済波及効果 (生産誘発額) (B)		誘発効果			付加価値 誘発額	雇用誘発 数(人)	市民税 誘発額	
			1次	2次	(B/A)	1次	2次				
主催者運営支出	651	621	862	758	104	1.39	1.22	0.17	499	90	9
ドラマ館来場者消費支出	3,653	3,387	4,698	4,175	523	1.39	1.23	0.15	2,605	469	47
関連施設来場者消費支出	4,669	4,328	6,004	5,336	668	1.39	1.23	0.15	3,329	600	61
イベント参加者消費支出	337	304	424	377	48	1.39	1.24	0.16	237	39	4
総計	9,310	8,641	11,988	10,646	1,342	1.39	1.23	0.16	6,669	1,199	122

○推計条件

(1) 主催者運営支出額

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の施設整備や運営等にかかった費用は、2022年度・23年度分を合わせて6億51百万円に上った。

(2) 大河ドラマ館来場者支出額

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の来場者数は累計 283,356 人 で、その内訳は、するが企画観光局の来訪者調査（2023年1～12月）の集計データから県内日帰客40.8%、県内宿泊客2.2%、県外日帰客17.7%、県外宿泊客39.3%と仮定される。

さらに、県内日帰客、県内宿泊客、県外日帰客、県外宿泊客それぞれの一人当たり消費支出額については、するが企画観光局の来訪者調査（2023年1～12月）の集計データ

(n=5,945) をもとに下表の通り設定した。

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」来場者の一人当たり支出額（円）

	県内日帰客	県内宿泊客	県外日帰客	県外宿泊客
旅行費用総額	2,422	15,510	7,830	25,865
交通費	383	1,154	2,218	2,315
宿泊費	37	9,151	56	11,444
飲食費	1,135	3,177	2,163	6,120
買物・土産代	539	1,289	1,720	2,786
入場・施設利用料	260	466	497	1,114
その他	68	274	1,176	2,088

(3) 関連施設来場支出額

関連施設来場者数：362,140人（「駿府城公園展示施設」、「静岡市歴史博物館」、「静岡浅間神社」、「久能山東照宮」（4施設、大河ドラマ館来場者との重複を除外）

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の設置により、市内の関連施設の来場者数も増加がみられた。そこで、「駿府城公園展示施設」、「静岡市歴史博物館」、「静岡浅間神社」、「久能山東照宮」の4施設について、大河ドラマ館が設置された2023年（1～12月）の前年（2022年同期間）からの増加数を求めた上で、大河ドラマ館来場者との重複を除外した（来場者アンケートのデータを利用）。延べ人数651,852人を実人数ベースに転換するため「令和4年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査」で示されている「平均立寄観光施設数」（県中部地域、1.8ヶ所）で除して362,140人と設定した。

集計データから県内日帰客40.8%、県内宿泊客2.2%、県外日帰客17.7%、県外宿泊客39.3%と仮定し、さらに、県内日帰客、県内宿泊客、県外日帰客、県外宿泊客それぞれの一人当たり消費支出額については、するが企画観光局の来訪者調査（2023年1～12月）の集計データをもとに設定した。

(4) イベント来場者支出額

イベント参加者一人当たり支出額：6,290円 総数：53,647人

※出陣式やパブリックビューイング参加向けのアンケート集計結果などをもとに設定（n=1,343）

大河ドラマに関連して開催されたイベント

	イベント名	時期	イベント参加者（人）
1	出陣式（出陣式のみ参加）	2023年1月8日	229
2	マルシェ（出陣式との両方参加）	2023年1月8日	2,581
	マルシェ（マルシェのみ参加）	2023年1月8日	2,619
3	パブリックビューイング	2023年1月8日	618
4	プロジェクションマッピング	2023年1月27日～2024年1月28日	5,710
5	静岡まつり	2023年4月1日	17,500
6	家康公クラフト	2023年5月27日	1,150
7	清水エスパルスとの連携	2023年9月3日	13,299
8	ファンミーティング	2023年9月5日・11月26日	170
9	ベルテックス静岡との連携	2023年12月9～10日	3,665
10	最終PV	2023年12月17日	1,836
11	家康公からの初運試し	2024年1月1日～1月7日	3,500
12	平成安倍の市・おついたちまつり	毎月1日	770
	総計		53,647

注）「静岡まつり」は4月1日の演者（今川氏真役）が出演する14時～15時にかけて35,000人がエリアに滞留しており、その半分（17,500人）が演者を目的に来場したと仮定した。

3 総括～「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」開館による地域振興効果

～付加価値誘発額は66.7億円、2020年度市内総生産の0.2%に相当～

「どうする家康 静岡市 大河ドラマ館」の来場者数は28万3,356人で、周辺の関連施設やドラマに出演した人気芸能人らが登場した関連イベント等も含めると、70万人近い観光客が静岡市を訪れたとみられる。地域としても、スタンプラリーの開催や学生・ボランティアによるツアーガイド、さらには周遊タクシーや無料シャトルバスの運行といった交通アクセスの整備など、来場者の満足度や利便性を高めるため、受入態勢の強化に注力した。

これらの誘客策により、多くの観光客が駿府城公園や静岡市歴史博物館、静岡浅間神社、久能山東照宮など、徳川家康公にゆかりの深い施設等にも足を運び、静岡市の歴史・文化などについて学びや体験を楽しむと共に、宿泊や飲食、買い物など活発な消費活動も行った。

その結果、静岡市内への経済波及効果は総額で119.9億円に上った。産業連関表上の37部門別でみると、消費支出の直接的な恩恵を受けやすい飲食サービス業や宿泊業、観光案内業などの「対個人サービス」が70.3億円と経済波及効果全体の58.6%と過半を占めた。以下、鉄道やバス、タクシーなどの「運輸・郵便」が14.2億円（同11.8%）、商業施設などの「商業」が7.6億円（同6.3%）、広告業や警備保障、物品賃貸などの「対事業所サービス」が6.5億円（同5.5%）で続き、コロナ禍を経て再生途上にある観光産業を中心に幅広い産業に恩恵が及んだ。なお、市内総生産（GDP）の概念に当たる付加価値誘発額は66.7億円で、直近データが示されている2020年度の市内総生産（3兆3,159億円）の0.2%に相当する。